

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 24 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	櫻井 聡
研究課題	消費者行動の理論的および計量的分析				
研究キーワード	消費者行動分析、参照価格、WTP、コンタクトポイント、ブランド	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

2021 年度の研究課題は①内的参照価格に関する理論研究および計量的実証分析、②メディア接触に関する広範囲な行動データを分析対象とした実証研究、③ブランド論に関する定性データの分析である。

①は、参照価格の測定候補のひとつである支払い希望額（WTP: Willingness to Pay）へ焦点を当て、既存理論研究・実証研究のレビューを行った。関連する統計的手法に関する文献研究と適用するソフトウェアについての学修も行った。学会発表など具体的な形にするまでに至らなかった。ここは一部に遅れが生じた部分である。

②は、野村総合研究所が販売しているデータを購入し、データのクリーニング作業や、基礎統計量などの準備段階的な作業を中心に行った。また、購入したデータはコンペティションでも使われているデータでもあるので、当該コンペティションの研究結果のレビューを行った。学会発表など具体的な形にするまでに至らなかったが、22 年度へ継続する研究テーマである。

③は、大学院時代の同僚と開始した共同研究プロジェクトである。20 年度に本学の論叢 58 巻第 2 号で発表したときに使用したのとは異なる年次のデータ（定性データを毎年収集している）を使って、探索的な予備的分析を幾つか行った。学会発表や論文化に至らなかったが、消費者が自分にとってのブランドへ抱くイメージと、そのブランド使用時に喚起する自己概念との関連性を示すようなキーワードが、予備的分析段階ではあるが明らかになりつつあった。引き続き定性データでの分析を進めている。

その他、③の共同研究者とその所属大学の同僚の研究者の 3 人で 2019 年度から開始した共同研究プロジェクトである、2019 年度に開催されたラグビーワールドカップの調査結果の一部を論文化した。発表論文は 2 本である。横浜市立大学の論叢に掲載予定である。また、同じ研究者達と、日本経営システム学会の英語雑誌へ、茶系ペットボトルのパッケージデザイン変更と売上に関する実証研究の論文を投稿しアクセプトされた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

“An Analysis of the Effects of Package Design Alterations for Tea-based Beverages,” co-authors: Noriko Shibata, Chen Sihong, Akira Nagamatsu, Soh Sakurai, *International Journal of Japan Association for Management Systems*, 2021, Vol.13.

（アクセプト済みだが、編集作業中）

【著書・論文（査読なし）】

「国際スポーツイベント開催における子ども達の観戦行動と心理的变化の測定」, 著者: 柴田典子・櫻井聡・永松陽明, 『横浜市立大学論叢』人文科学系列, 2022/1, 73 巻 1 号 (編集作業中)。

「国際スポーツイベント開催における子ども達の心理的变化に対するテキストマイニング」, 著者: 柴田典子・櫻井聡・永松陽明, 『横浜市立大学論叢』人文科学系列, 2022/3, 73 巻 2・3 合併号 (編集作業中)。

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

野村総合研究所から「Insight Signal DATA Service アカデミーパック (2020 年 2-3 月期、2020 年 9-10 月期データ)」を 181,800 円で購入した。その他は主に、関連書籍や文具の購入、会員費・学会参加費などの学会関連に使用した。

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

【科学研究費】 基盤研究(C)、令和元年度～令和 4 年度、研究分担者、課題名「消費者の自己表現と自発的ブランディングの理論と実証」(18K01881)